

江東特別支援学校 指導の心得（基礎的環境整備）

1 言葉かけは短い言葉で明瞭に話す。

unnecessaryな言葉は使わず、具体的に表現する。

「すわってください。」「次の時間は〇〇時からはじまります。」

2 視覚的にはたらきかける。

口頭で伝えるだけでなく、身振り手振り、写真や絵、文字で伝える。

3 あいまいな言い回しはさける。

「きちんと」「ちょっとまって」ではなく

「〇〇をしてください。」「〇〇分待ってください。」と具体的に伝える。

4 否定語ではなく肯定語で伝える。

禁止の言葉を入れないようにする。

「黄色いブロックの外側に出ないでください。」⇒「黄色いブロックの内側を歩いてください。」

「ウロウロしないでください。」⇒「〇〇マークのところにいてください。」

5 話すときは正面から話す。

一度にたくさんの情報が入ると、どこを見るのか、誰の話を聞くのかが分からなくなる場合があるので、話している相手が分かるように正面から話す。

6 言葉かけの音量を抑える。

聴覚が敏感な生徒の場合、大きな声だと激しく興奮してしまったり、苦痛を感じてしまうことがある。声の大きさには配慮が必要。

7 穏やかな態度で対応する。

教員が「はらはら」や「どきどき」したり、怒っていたりすることは敏感に感じ取るので、できる限り穏やかに対応することを心がける。

8 見通しを伝える。

・「終わり」を伝える。タイマーを提示して終わる時間を明確にしたり、「〇〇が終わったら、終わり。」と具体的に伝えたりして見通しがもてるようにする。

・スケジュール表等を活用して授業の流れに見通しがもてるようにする。

9 上手に褒める。

活動が正しく行えたら、「よくできたね」などと褒めるようにする。

自信をもつことで、適切に行動することができる。

10 刺激を減らす。

感覚が過敏な生徒がいる。視覚的な刺激（伝える内容を一つずつにしたり、提示物に過度な装飾をしたりしないなど）や聴覚的な刺激（声の大きさや周囲の環境によって伝わらないときがある）には配慮する。